

山桜會報

第71号

2003年6月

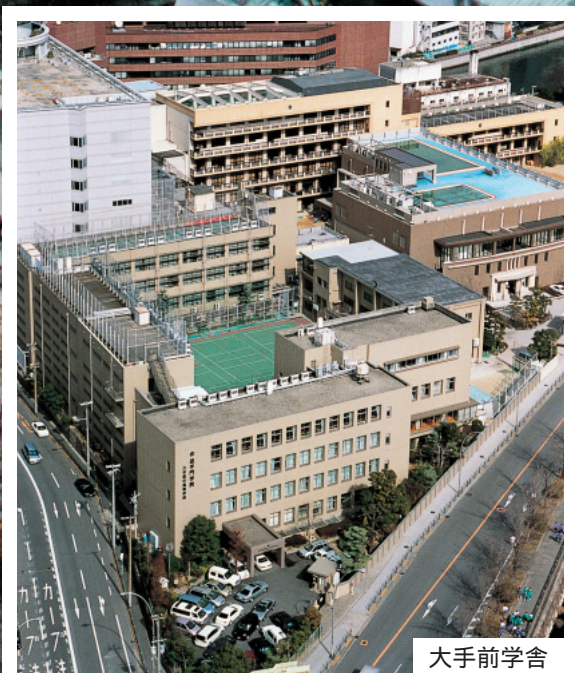
発行者
追手門学院校友会山桜会
会長 川原 俊明
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20
追手門学院小学校内
TEL 06-6940-3481・FAX 06-6940-3482
©2003 編集責任・松本 暁子



偕行社小学校の門

振り込もう！山桜会年会費
参加しよう！総会・懇親会

6月22日(日) 10:00~
11:00~



大手前学舎

CONTENTS

表紙・偕行社小学校の門、大手前学舎、茨木学舎1
山桜会の未来を探る / 川原会長2~3
学院の未来を展望する / 大木理事長4
120周年を目指して / 後藤学院長5
学院総合改革の視点 / 山中常務理事6
学院創立120周年に向けて / 川人常務理事7
コース制第1期生の成果 / 中等学校(茨木)土井校長8~9
適性 / 大手前中等学校亀井校長10
さあ、80才にして起とう / 小47兵頭公克10
追手門学院小学校の子ども / 小学校伊勢田校長11
大阪でジャズを演奏すること / 小71中高14吉川裕之11
会則変更のお知らせ / 香山会則委員長12
年会費振込のお願い / 川口副会長12
山桜会・PTA役員意見交換会 / 北村渉外交流委員長13
チャリティー・ゴルフコンペのご案内 / ゴルフコンペ実行委員会13
東京山桜会校外教授とグルメの会14
総会・懇親会のご案内 / 生川実行委員長15
「マクベス」のご案内 / 大手前中高OB「無名劇団」15
行動する追手門 / 追手門学院総合企画課16



茨木学舎

山桜会の未来を探る

・年会費制導入による山桜会の活動強化方針と、
母校120周年に向けての教育改革支援について・

山桜会 会長 川原 俊明



川原会長

織である山桜会は、大正5年1月30日をもって創設時とされ、今日まで脈々とその伝統が承継されています。今般、学校法人追手門学院が新たに教育改革を唱えるなか、山桜会では、平成13年4月、現在の執行部が発足し、多くの実質活動メンバーを携えて新たな歩みを始めました。

現執行部が活動の基本として打ち出した指針は、母校への貢献ないし関与の度合いを強化することです。山桜会が、従来型の単なる卒業生同士の同窓会活動から一歩踏み出し、母校への関わりを強化する。このことによって、社会的行動を実践しようとするに至ったからです。この方針は、昭和53年に母校創立90周年を迎えるにあたり山桜会が、次の母校100周年を目指して山桜会を学院の後援団体に位置づけようと、会の呼称を「同窓会」から「校友会」に変更した経緯と合致します。

現執行部の活動も早くも2年を経過しました。新体制になって組織された11の各委員会それぞれが活発な活動を行い、当初目標に掲げた会員全員参加型の山桜会活動がまさに実践されようとしています。

また、山桜会は、卒業生に対する情報伝達手段あるいは社会への対外的広報活動手段として、山桜会会報のみならず、インターネットを利用した山桜会ホームページの立ち上げを行い、現在では会報とともにホームページが日々の山桜会活動の成果をリアルタイムに伝達するのに不可欠な広報手段として機能しています。

山桜会の母校支援方針は、すでに学院からもご理解を得て、学校法人の理事枠をすでに実質2名にまで拡大していただきました。私たちは母校に対し、今後も山桜会の役割の重要性についての啓蒙活動を深め、さらに教育改革への関わり、のみならず母校の運営により多くの卒業生が関わる方向を目指したいと思います。

山桜会の活動状況

さて、新体制の山桜会は、全員参加型の同窓会活動を実践しています。そこでは3名の副会長(秋山陽彦副会長、川口正弘副会長、生川紳一郎副会長)を中心に、理事会、評議員会のほか、各委員会制度を設け、一般会員が幅広く現実の活動に参加していただく体制をとっています。

このたび11の委員会で発足した新体制も、それぞれがすでに大きな成果を上げています。

ホームページの立ち上げを果たしたIT推進委員会(馬場耕一郎委員長)、山桜会会則変更を実現した会則委員会(香山恭慶委員長)、PTAや各校の先生方との意見交換会、体育祭、文化祭での模擬店参加、スポーツ大会参加など多彩な活動を果たしてきた渉外交流委員会(北村寿彰委員長)、近く新たな会員名簿の発行を企画する会員情報管理委員会(後藤良雄委員長)、ますます紙面を刷新する山桜会会報の発行元の会報委員会(松本暁子委員長)、会員の結束、母校との絆の強化、ゴルフなどの親睦企画で会員内外の交流を企画する文化活動委員会(大向博委員長)、理事会、評議員会、総会など会務運営を下支えする総務委員会(實来扶佐子委員長)、インターシップ協力など現役生徒に対する支援活動を展開する教育支援委員会(能登知巳委員長)、山桜会の頭脳であるシンクタンク機能を果たすべき改革推進委員会(佐藤文一郎委員長)など、実に多彩な委員会が互いに協力しあって活動をしています。さらに、新年会実行委員会や総会懇親会実行委員会が、その都度結成され、山桜会の大きなイベントを成功に導いてくれます。

序

山桜会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。このたび、山桜会は、総会決議により、運営の根幹にかかわる財務体制を刷新し、年会費制を導入いたしました。山桜会としては、心機一転のつもりで新たな歩みを始めます。山桜会会報も、今号より紙面を一新しました。そこで、山桜会の歩みと未来をみなさんとともに語り合いたいと思います。

追手門学院とともに歩む 山桜会の歴史

2008年、追手門学院は創立120周年を迎えます。

明治年に大阪偕行社附属小学校は、陸軍第4師団長高島鞆之助中将の提唱により設立された大阪偕行社がその起点となっています。以来今日に至るまで、偕行社ならびに追手門学院が送り出した卒業生は約25,000人にのぼります。

偕行社ならびに追手門学院の卒業生組

年会費制導入のいきさつ

さて、本年1月18日、山桜会新年会に先だって、臨時総会が開催されました。これは、いまでもなく、年会費制導入決議を行うためでした。すでに茨木中高一で開催された山桜会理事会において、それまでの度重なる導入論議の延長線上として、理事会出席者全員一致の承認のもとに、導入決議が行われました。臨時総会は、この結果を踏まえてのものでした。

しかしながら、そもそも年会費制導入なるものは、山桜会史上、劇的なことです。これは、創設以来一貫して終身会費制をとってきた山桜会の財政基盤である終身会費を入会費制に改め、毎年、年会費徴収のご協力をお願いするものだからです。

年会費制導入のねらいは何か

1つには、日本の社会制度にかかわる根本的なことです。日本の少子化現象により、生徒数の減少傾向が現実のものとなります。入学人数が減少すれば、確実に卒業生の数も減ってきます。そのことは、終身会費を納める会員が減少し、山桜会の財政基盤そのものが危うくなって同窓会活動自体が困難になる、ということです。

2つ目には、山桜会の活動が、ホームページの運営、学院の教育改革への参画など、以前にもまして飛躍的に活動が活発化しており、資金的にみても、将来的には経費の増加傾向が十分に予測される、ということです。

3つ目は、山桜会の活動が、より母校の教育改革に向けられていることです。教育改革支援の一環として、山桜会賞の創設など現役生徒に対する支援活動も含まれており、私たちの年会費を、母校に還元していこうという発想があります。

卒業生にとって母校が発展してくれることは、好ましいことであり、私たちは今後この路線を進めていくつもりです。

この意味で、私たちの今後の年会費は、財政基盤を確立した上で、主に母校の教育支援に向けられる、という趣旨でご理解いただければ幸いです。

追手門学院120周年記念事業と山桜会の役割

卒業生集団である山桜会としては、母校の発展に寄与すべきは当然のことです。そこで、卒業生の立場から見て、母校の120周年記念事業に対する基本的構想

として意見を述べさせていただくならば、従来のような単なるお祭りだけの記念事業に終わるべきではありません。むしろ、教育改革の観点を前面に打ち出した周年事業であるべきだと思います。

一言でいえば、追手門学院の「名門の復活」を目指せ、ということです。

このためには、追手門学院という伝統を誇る「古い革袋」に、従来の固定概念を越えた魅力ある学院の構築という「新しい酒」を注ぎ込む必要があります。

母校の教育改革の目標設定。それは、総合学園の機能を十二分に発揮させることでしょ。

幼・小・中高・大・大学院の慶応型一貫教育を目指せ!

これも、私学追手門学院のめざすべき道ではないでしょうか。

要は、「オール追手門」の実践あるのみです。追手門学院が目標とする教育改革は、追手門が本来掲げる、「社会有為の人材を育成する」という理念を実践することにあります。

もちろん教育水準の向上も、それ自体は大切なことですが、これからは、従来のように、単に偏差値を高くすればよいというものでなく、個性的な生徒の育成、国際人として通用する人材の輩出をすべきです。このためには、まずは生徒を指導する立場にある先生自体の質を高めていかなければなりません。

文武両道で大阪一の学園を目指せ。

個性派学生を育てよ。

国際的指導者となるべき人材を輩出せよ。というのが、学園内外のみんなの願いではないでしょうか。

教育内容の相互交流も大切なことです。教員の全学的人事交流が可能になれば、あらゆる分野での適材の確保が容易になるでしょう。生徒・学生たちも全学的交流を広げる、例えば、茨木中高一と大手前中高一の共同学習・共同企画の試みなど、夢だけに終わらせてはならないと思います。

また、全学的観点からすると、小中高のレベルアップには追手門学院大学のテコ入れが不可欠でしょう。そのためには、目玉学部・学科の新設、例えば法学部など最近の人気学部、人気学科の取り込みなども視野に入れる必要があると思います。

また、学内のIT化を進める観点からは、総合学園としてのホームページの充実も必要でしょう。今日のような情報社会では、日頃から、情報収集・情報発信体制を強化することが、生徒募集、学園紹介などの場面に大きく威力を発揮します。

そして何より「学校法人組織の機能的

再編」が「経営能力の強化」が先決でしょう。

従前、追手門学院に対する評価としては、「経営母体ははつきりしない。」「誰が経営しているのかわからない。」「追手門には顔がない。」との意見が出されてきました。

むしろ今後は、法人理事会が追手門学院の経営主体であることを明確に打ち出す必要があります。同様に、学校法人理事会による人事権の掌握、指揮命令系統の一貫性、校長選挙の廃止など、運営体制にますますのメスを入れる必要があります。

学園の物理的な変貌の夢としては、発祥の地・大手前学舎を超近代的高層ビルへ変貌させることも一つの夢です。例えば、早稲田大学が、大隈会館をリーガロイヤル早稲田に変貌させ企業と提携して近代ビル化を図ったことのように、企業を巻き込んだ再編も大事なこともかもしれません。山桜会にとっては、同窓会館の建設も楽しみの一つであります。

さらに記念事業の開催をすれば、例えば、卒業生の一人である湯浅卓雄氏（元イギリスBBC管弦楽団常任指揮者）の指揮によるオーケストラ記念公演というのも楽しい夢の一つではないでしょうか。

このように、追手門学院120周年事業に対する卒業生の役割、そして山桜会の役割は非常に大きいものがあります。

追手門学院と山桜会の未来像を求めて・・・

母校の教育改革・機構改革が進んでいく中で、卒業生集団である山桜会は、間違いなく重要な役割を果たしていきます。

学内からも、卒業生が法人経営のかじ取りにもっと多くの役割を果たすことが求められるでしょう。

これは、情報化社会のなかで、追手門学院卒業生の動向を把握できる唯一の中核機関がまさに山桜会だからです。

卒業生同士の双方向情報交換、異業種交流につながる仲間の情報提供、高齢化する社会の中での卒業生同士の心の交流など、山桜会は、情報の拠点であります。

後輩や、現役生徒への社会人としての関わりが期待されるインターンシップ制度、さらには母校を含めた社会への関わり集団として山桜会がもっと社会的役割・社会的貢献を期待されることになるでしょう。

私たち山桜会は、母校を中心にして、自らの生き甲斐の追求とともに、同世代・異世代の心の交流を求め、豊かな人生・豊かな社会のためにみんなで活動していきたいと願っています。



大木理事長

学院の未来を展望する 120周年記念事業の推進 にあたって

- 行動する追手門学院へ -

追手門学院理事長 大木 令司

山桜会会員の皆様には、平素より学院発展のために多大なるご支援ご協力を賜り、深く感謝致しております。

さて、追手門学院創立120周年が5年後に迫って参りました。大学・各学校・園の歴史はそれぞれ異なりますが、その淵源をたどれば、いずれも明治21年西暦1888年の大阪偕行社附属小学校開学の昔にさかのぼるわけであり、追手門学院は爾来115年の長きにわたって、自主・自立の精神を尊び、社会有為の人材を世に送り続けて参りましたことは、会員の皆様方周知の通りであります。

学院は、120周年を一大契機としてとらえ、それぞれの学校の歴史を振り返りながら学院としてのさらなる教育改革を総合的に進め、ゆるぎない教育力を誇る総合学園としての基盤整備に全力を投入する所存です。理事会としまして、学院の教育事

業につきまして関係組織の協力を得てバックアップ態勢を整えております。

周年事業は、一過性のものになりがちであります。しかし、120周年をそのようなものにしてはならないと考えております。不断の教育改革・業務改革こそが、持続性の条件であります。行動する追手門を今後の学院のモットーとして参る所存です。もちろん、大局を見失ってはなりません。今、日本の教育に求められていることは、「豊かな教養を育み、自ら考え行動する日本人」の育成にあると考えております。常に、短・中・長期の観点を堅持し、その目標実現に不断の改革で取り組む必要があると思っております。

まず、学院自身が行動しなければなりません。隼より始めよ、であります。学院は、総合学園としての基盤整備を中心とした学院総合五ヶ年計画を早急に立案・提示・

実施して参ります。その事業計画、行動指針を機軸に据えて、大学・各学校・園において教育改革・業務改革を、着実に早急に推進していきたいと思っております。現場での創意・提案を最大限に評価し、未知へ挑戦し続ける勇気をもって経営にあたる所存です。

この3月には、理事会の中に「120周年記念事業推進委員会」を立ち上げました。教育構想、施設建設、式典、広報、募金等の小委員会を設けて本格的な準備に取り組む所存です。

120周年記念事業の組み立てについては、今後学院内外関係各位のご意見を十分に伺い、ご指導、ご鞭撻を得ながら、追手門の総力をあげて未来の追手門の基盤づくりを進めていきたいと思っております。今後とも、山桜会会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

春の叙勲

東京山桜会 会長 小49

三宅 彰氏

叙勲 勲三等 瑞宝章 受章

東京山桜会

カルチャーの集い

「校外授業」のご案内

10月25日(土)

15:00~20:00

交通博物館

乗り物いっぱいの見遊知会夢

グルメ神田 ぽあん

賛助金 (平成14年12月1日~)

- | | | |
|----------------|----------------|-------------------|
| 丸山 孝宏 茨高28 | 藤原 洋吉 小51 | 浮田 泉 大中高27 |
| 足立 尚 茨中4茨高24 | 竹中 禮子 小71 | 大江 一央 大高34 |
| 仲本 洋 大高13 | 奥田 博之 小64大中7 | 川口 武邦 小76 |
| 園 博年 大中高37 | 吉村 和久 茨高25 | 吉岡 志朗 茨中18茨高38 |
| 島津 嘉男 小44 | 前田 卯一郎 小45 | 木村 幸子 大中5 |
| 中本 昌久 小84 | 岩崎 邦男 小56 | 中嶋 克仁 小113 |
| 真原 立二 小76 | 黒田 孟利 小49 | 中嶋 彩乃 小111 |
| 谷口 浩平 小51 | 池田 利夫 小81 | 中谷 庄八 小59中高2 |
| 加茂 昭 大中高13 | 米田 真 小67大中高10 | 戸田 浩司 茨高30 |
| 竹之下 匠 小110 | 中野 志隆 中高6 | 林 正則 小86 |
| 大西 義夫 小55 | 那須 崇高 大中高39 | 深田 尚司 小94 |
| 近森 康宏 小93 | 那須 由紀子 小100 | 荒井 恵子 大高9 |
| 塩谷 章 小61大中高4 | 山本 俊夫 小50 | 中本 収 小83 |
| 二宮 徹子 大中2 | 小林 基子 小75大中高18 | 望月 靖允 大中3 |
| 西川 周 小64大中高7 | 十河 弘二 小55 | 小原 壮一 中高16 |
| 林 良三 小51 | 山本 智英 小61 | 福本 敬久 小84大中高27 |
| 山徳 与至夫 小55 | 金城 平八郎 小59 | 甲谷 富佐子 中2 |
| 賛田 肇 大高19 | 森繁 弘 小51 | 濱田 美加 小88大中高31 |
| 堂ヶ原 古弓 茨高28 | 西村 直樹 茨中22茨高42 | 賣来 順子 大中高25 |
| 岡村 育子 茨中10茨高30 | 瀧川 弥州男 小62中5 | 前田 純雄 小79大中22茨高22 |
| 大東 美穂 小93大中高36 | 新津 健樹 小72中高15 | 中西 要彦 小60中高4 |
| 堀端 栄之助 小51 | 岩波 健人 小63 | 岡崎 史朗 小43 |
| 深江 賢 小61 | 正木 暁 小113 | 池口 小太郎 小59 |
| 福谷 雅雄 小51 | 浜坂 芳宏 小66 | 出羽 昭彦 小66中高9 |
| 相馬 太郎 小49 | 小儀 俊光 小66大中9 | 木下 慎一郎 中8 |
| 正岡 徹 小56 | 中谷 庄吉 大中5 | |
| 上野 勝英 小65中高8 | 岡本 興三 大中6 | |
| 佐藤 功 小55 | 佐藤 潤 小84 | |

120周年を目指して

学院長 後藤 幸男



後藤学院長

再任されてから早くも一年が経過しました。他大学に行っていました四年間にいろいろ大きな変化がありました。特に教職員のほぼ全員が一致して私学間競争に勝ち残らなければ、という意識をもっていたこと、かつての労働組合至上主義が姿を消し、労使間の話し合いがスムーズに進むムードが醸成されていたことに驚かされました。

一方全然変わっていない筆頭は、昔ながらの観光バスの駐車場?かと間違える光景であり、またいくつかの「オンボロ校舎」(大学ばかりでなく、二つの中・高等学校、幼稚園も同様、小学校は一部西館のみ古いま)でした。さらに財務状況に目を落とすと、各校園とも「財政ピンチの連続」で、一向に改善策が講じられた形跡が見えなかったことです。

ですがいつまでもビックリばかりしているわけには参りません。早速執行部の皆さんと相談し、「行動する追手門」を標榜して五年後の創立120周年を目指した「総合改革プラン」(略称戦略一〇〇)を立てました。これは今後の学院の進路を示すばかりでなく、二十一世紀の社会の中核を担って活躍する「創造性と国際感覚豊かな人材の育成」を目指した画期的な計画です。その柱として私は次の五点をあげたいと思います。

- (一) 独立自彊の精神の昂揚
- (二) 各校園のレベルでの教育改革
- (三) 特に大学での研究体制の強化とそのための組織・システム改革および時代の要請に応える学部学科の改組転換や大学院の充実策
- (四) 財政改革とりわけ人件費削減の改革と、施設設備の充実・改善資金の捻出
- (五) 進展する国際化対応と社会貢献の促進

(一)教育の本来の目的を一口に言えば、人格の陶冶と知識学力の向上ですが、教える側が躍起になっても、受ける側が「学ぶ」姿勢を持たない限り効果が期待で

きません。本学院の建学の理念である独立自彊の精神の涵養は、まさしく自分から進んで(自主)、他から束縛や強制されることなく(自由)、主体的に自分の力を頼りにして(自立)物事を深く考え、研究し、本質を見抜く力を養うことにあります。ですから、幼稚園から博士課程までの各教育段階において、学ぶ者が自ら「未知を既知たらしめる努力」を重ねるように、全教育職員が一致して指導していかねば、と考えております。

(二)では教育改革の具体的な効果向上策は?と問われる時、私は(ア)語学(特に国語と英語)教育の強化(イ)コンピューター教育の徹底(ウ)社会連携による実学教育(エ)いわゆる「高大」連携のように、総合学園としての強みを発揮する連携プログラムの推進とこれらの教育改革に寄与する研究体制の整備、をあげたいと思います。

(三)予算規模からいって学院全体の七割近くを占める大学がまずしっかりしなければ学院の社会的評価は上がりません。そのためには大学での教育改革の推進が真っ先に取り上げられるべきです。幸い今年度からセメスター制が始まりましたし、インターシップの導入、キャリア開発部の設置など、実学教育の振興策が展開されました。今後附置研究所の整備充実などを進め、「特色ある教育と研究」を促進していきたいと考えています。もちろん時代の要請する学部や学科の改組(例えばベンチャー学科の新設など)転換や地元茨木市と提携したいいわゆる「サテライト大学院」の設置なども視野に入れた改革構想も展開しなければなりません。

(四)にいった改革は、もちろん財政基盤の強化があってこそ可能です。「入るを計って出づるを制す」がその要諦ですが、消費支出の一層の節減や各種補助

金の獲得に向けての一段の注力、昨年導入した「ゼロベース予算」の徹底、消費収支の黒字化と積極的な基本金組み入れ等々、きめ細かい財政再建策の展開を図ります。この際一番の重要課題は人件費の削減ですが、職能資格制度の浸透と業績評価中心主義制度の確立、非常識ともいべき期末手当の合理的削減等多面的な改革手段を一段と強く押し進め、それによって老朽化や狭隘化著しい学舎の新増改築や最新の教育工学機器の導入によって教育効果と研究成果の飛躍的上昇を実現したいものです。

(五)私は、「国際化とは異国の文化の相互理解とその促進」と考えております。グローバル時代と言われてから久しく、それゆえに学院はいくつかの国の大学や高校・中学との提携を進めてきました。今後小・中・高・大全部が一緒になって国際化に取り組み、国際感覚豊かな人材の育成にあたります。また本学院での研究や教育の成果を公開講座等を通して積極的に社会に還元したり、各種の媒体を通して有意な情報を発信することに力を入れ、社会貢献責任を果たしていきたいと思っております。

山桜会から私に求められた表題は「学院の現状について」ですが、現状では正直に申し上げて「大変だ」という以外に適当な表現が見つかりません。長年の自由と放縦の混同や安易なアウトソーシング、管理職のリーダーシップ不在、脆弱な財政基盤等々現状に対する不満を数え上げれば次々と出てきますが、今さら愚痴ってみても何も前進がありません。それゆえ、今後どういう方向に進んでいくべきか、私見の一端を率直に申し上げ、山桜会の皆様方の忌憚のないご批判を仰ぎたく思いました。

今後山桜会と学院が手を取り合って「より良き追手門づくり」を目指して進みたいと存じますので、変わらぬご支援を幾層にもお願いいたします。



山中理事

学院総合改革の視点 内包的充実と外延的発展

常務理事 山中雅夫

1 学院総合改革

学院執行部では、この10月を目途に改革の基本設計図の骨格を描き上げるべく、総合的な改革検討作業に入っている。「栄えある学院、追手門」の名を高めるためには、大学を輝ける存在に成長させることが必須であることについては、かねてより言われてきたことである。大学改革を基軸に、学院総合改革に向かって行動する追手門の姿を世に問うとの固い意思表示が、学院全教職員に対しこの2月に理事長、学院長によって示されている。

学院総合改革に当たっての基本理念、行動指針については、すでに「OTEMON通信第9号」に掲載させて頂いているが、現在はその基本プランの具体的シナリオ作りの段階にある。その第一段階が、2008年の120周年に結集される第一次五ヶ年計画である。現在、園・各学校・大学ならびに学院の執行部において計画策定作業が精力的に進められているところである。競争力を高めブランド力をつける教育戦略を構築し、個性ある大学、個性ある学院の姿をどのように描いて行くのか、執行部の経営手腕、マネジメント力が厳しく問われている。

2 戦略開発と組織開発

マネジメントには、二つの部面がある。戦略開発と組織開発の二つである。教育機関における戦略開発とは、教育、研究ならびに社会貢献等の関連事業を含んだ総事業構造の展開を意味し、それは経営資源の効果的投入・効果的配分の問題である。大学で言えば、学部・学科構造の選定、その学生定員配分、大学院研究科の編成、研究所・センター等の設置など、資源投入を要する事業展開を策定する活動である。これには、社会・保護者・志願者・企業など社会全般のニーズに応える環境適合と当該大学の能力面での資源適合とをマッチングさせる必要がある。すなわち戦略開発

とは、マーケット・インとプロダクト・アウトの適合を探るマネジメント活動であり、財政基盤を確立させるベースとなる事業構造の策定が主題となる。

他方、組織開発とは選んだ事業の効果を高めるために、効率的な資源活用にかかわるマネジメント活動である。個人の活性化、意思決定の仕組み、人事・給与システム、組織風土など、集団維持機能にかかわる問題領域である。事業構造の比較的シンプルな教育機関では、この組織開発の善し悪しが、学校・大学の競争力の決め手にもなりうるほど重要なマネジメントの部面となる。

3 追手門の資源

本稿では紙幅の関係上、戦略開発に限定し追手門の将来計画策定の根幹にかかわる二つの資源に触れておきたい。多くの他の大学、学院にない追手門の資源は何かという視点である。それは、(1)総合学園であること、(2)都心にキャンパスを持っていること、の二点である。

総合学園であることの潜在的意味はきわめて大きい。追手門の教育理念としては「OTEMON通信第9号」に掲載させて頂いたが、それを要約すれば、教養教育の深化、社会貢献・実践教育の重視、日本・世界に通用する個性の育成、の三点である。幼稚園から真の人材育成に取り組むことが出来る一貫教育校の優位性を最大限に機能させることにより、西日本を代表する総合学園のモデル校を目指すことが出来ると考えている。未利用資源の宝庫のごときオール追手門の総力を結集させうる教育戦略の展開、そのマネジメント力が鍵となる。都心にキャンパスを持っていることの潜在的優位性もまた、大きい。とくに中・高・大学・大学院の教育ならびに研究内容が高度化・複雑化し、社会連携、社会融合が進展している今日では、都心、それも大手前という一等地に土地資産を所有している追手門の比較優位は圧倒的であるとさえ言える。こ

れを適切に利用しない、あるいは利用できない場合の機会損失は計り知れないと思われる。大手前中・高の教育環境を守るばかりでなく、これを高めることが出来るような、あるいは中・高・大・大学院の再編成を含め、大手前キャンパスの高度利用のコンセプト・教育構想の構築という挑戦的な課題を現執行部は突きつけられていると言えよう。

4 内包的充実と外延的発展

不断の教育改革・業務改革により、社会有為の人材を世に輩出する教育力の開発・強化にエネルギーを投入する努力、今いる学生に満足を提供でき志願者獲得につながる競争力をつける努力、これらを総称して内包的充実と呼ぶ。これは教育機関としての維持存続に欠かせない努力である。しかし、教育機関には「夢、高い志」が必要である。社会連携を超え社会貢献・社会融合を目指す教育・研究の事業展開の施設とともに、学術・文化・芸術・スポーツ等さまざまな分野で時代をリードする一流の人物との情報交流・社会交流拠点となる施設を擁し、日本・世界に通用する個性を育み、日本・世界に通用する教育・研究機関としての追手門学院の将来を構想し実現して行く、これを外延的発展と呼ぼう。保護者・卒業生の活動拠点となる施設も備えれば、文字通りオール追手門を象徴する開発構想となる。

追手門学院の内包的充実と外延的発展、その融合の象徴として大手前キャンパスの高度利用計画を、今後理事会をはじめ学院内関係機関での議論の俎上にのせたい。山桜会会員の皆様のご支援・ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げて、拙い一文を終えさせて頂きたい。

学院創立120周年 に向けて

常務理事 川人 公一



川人理事

山桜会会員の皆様には平素より学院発展のために多大なるご支援ご協力を賜り、深く感謝致しております。

さて5年後2008年には、本学院は創立120周年を迎えます。明治21年、1888年、大阪偕行社附属小学校として創立されて以来、幾多の困難を乗り越えながら数々の栄光の歴史を積み重ねてきました。今日の隆盛は創設者高島鞆之助中将をはじめ、歴代の先賢諸氏において「社会有為の人材を育成する」という理念のもと伝統の精神をもって本学教育に懸命な努力を積み重ねてこられたおかげであります。そして戦後、学院は小学校を発祥校とし、中、高等学校、大学、幼稚園、大学院を設置するに至り総合学園として発展してまいりました。しかし今の時代は、私学をとりまく諸状況はなほだ厳しく、本学院もその渦中において大きな影響を受けております。今こそさらなる発展を目指し学院が一致団結し努力しなければならない時と考えております。そのために創立120周年記念事業を全学で取り組みその総合力を結集することになりました。「行動する追手門」をモットーに学院は各学校、園も年輪を重ね歴史の深みも増している今、あらためて120周年の年を見据え、それぞれの歴史を振り返り先哲を顕彰し一層の教育力を高める事をしなければならぬと考えます。各校園において教育改革のもと、ゆるぎない教育力の構築をなすとげ名門学院としての総合基盤を築くことを創立120周年記念事業の意義としたいと思います。

記念事業の推進

本年より学院挙げて準備活動に入り、推進する体制に入っております。その主旨は理事長はじめ学院長、執行部の方針にもあるように、「創立120周年は追手門の過去、現在の総力をあげて未来を描く」即ち、一大イベントとして実施し、本学院の姿を世に問う機会としたいという事です。各校園の教育改革やキャンパス整備計画をまとめ記念事業としてそれらを位置付け単なる一過性の周年事業にならず永続性の保つ周年事業とし、常に短、中、長期の観点を堅持し、

その目標を確実に実現するよう、取り組まねばならないと考えております。

120周年記念事業推進にあたり、実施するための編成は理事会総括のもと推進委員会が設置され全体計画を推進し、そのもとに全学院部局長会があり各小委員会に別れることとなります。一方新たに創立120周年記念事業事務局を設け全体の事務をつかさどり、さらに各事業計画が出揃った時点において、協賛会を結成し募金活動にも力を入れることになっております。各校園独自の計画は各校園計画小委員会、学院全体事業の計画は全体計画小委員会を設置することになっております。

各小委員会の活動

実動に入る準備として学院の作業部会が企画立案をしてまいりました。現在進行中の事業は幼稚園であります。「未来に向かって行動する追手門学院」のスタートにふさわしく新園舎の建設が実行されております。2003年7月着工、2004年8月竣工の予定です。園として総力あげて120周年記念事業として取り組んでいることも報告いたします。まず、幼稚園からの行動発進です。これから各校の教育計画に添った建設計画等も出される事になります。

さらに全体計画小委員会として次のような小委員会を考えています。

教育構想委員会

学院創立120周年という節目にあたり全学院が今一度教育の原点に立ち返り基本理念を確認しあうとともに学院としての教育基本方針を構築、幼稚園から大学までの一貫教育についての展望計画を作成、各校園の個性の発揚、尊重する中に於て全学を貫く追手門教育のアイデンティティの確立を行う。

施設建設委員会

幼稚園のスタートから各校の可能性のある建設計画の提案を実現に向かえるべく検討し推進する。各校においてはいづれも改修を含め建設計画が予測される。実施でき

得る学校から行動することになる。今後の大きな課題としてシンボルとしての建物等、大いに検討できればと考えております。

募金委員会

創立120周年記念事業をするにあたり、事業内容が確定した時点で全学関係者に対しての協力をお願いする。募金については協賛会の結成により他方面からの協力も願い実績を上げ、その力をもって学院も総合力をもって記念事業を完成させる。

企画広報委員会

創立120周年記念事業に対する情報の提供を密にして「広報」を発刊します。タイムリーに、又定期的、各校園、同窓会ともタイアップしつつ広く情報提供できるようにする。企画部門のひとつとしては記念講演会、記念音楽会等の開催を考える。

記念誌編纂委員会

学院の現状を中心に編纂し、各校園の歴史の変遷等、教育の歩みを掲載する。百年志までは発刊されているが百十年志はない。二十年間の各校園の教育を中心として編纂する。

記念式典委員会

2008年の佳き日を選び式典及び祝賀会を実施する。各界へ追手門学院の総合力と教育力の充実発展を示し存在感を知らしめるものでありたい。

他に各校園による色々な企画は独自に推進してもらい、学院としての位置づけの中、行動する追手門にふさわしいものを実現できればと考えています。

以上学院の方針として創立120周年における記念事業の実施にむけて前進しております。

山桜会会員の皆様方におかれましてはご理解賜り、今後共にご支援ご協力をお願い申し上げます。

コース制 第1期生 追手門学院中高等学校

の成果

校長 土井 邦孝

はじめに

校庭に桜が咲き誇る中で、平成十五年入学式・始業式を行い、新年度の教育活動が始まりました。校長室からも、廊下やグラウンドでの活気あるやりとりが聞こえ、生徒たちの明るく楽しそうな様子が伝わってきます。

改革のシンボルとして新調した紺のブレザー・スーツの制服が全学年に揃った今年度は、本校の教育改革が導入期から充実期に移行していることを実感し、心が引き締まる思いです。

教育改革の根幹である「学力向上」を目指したさまざまな学習活動は、この年度末に精査を加えて、成果として確認できることと、課題として残っていることに分別し、基本的にはこれまでの取り組みを基盤にしながらも、新たな企画も積極的に採り入れる計画です。今年度は「質の向上」をキーワードに、生徒一人一人からさらなる学習意欲を引き出し、将来展望に自信と可能性を与えることができる教育活動に邁進する決意です。

幸いにして、中学校教育への関心の高まり、高校入学志願者の大幅増加や大学進学への飛躍的な躍進は、皆さま方にも喜んでいただける成果として報告できることを誇らしく思います。

また、本校の教育活動に対して、山桜会の皆さま方をはじめ、学院関係者や地域からの高い評価は、非常に力強い支援となっています。必ずや生徒たちの夢や目標の実現に繋げて、皆さま方の期待に応える所存です。今後ともよろしく願いいたします。

大阪大学・早稲田大学をはじめ難関校合格

この三月に初めてコース制で3カ年を過ごした生徒たちが卒業しました。学力の向上・進学実績の向上をうたって導入したコース制ですから、学校

としても進学実績には大きな関心を持って指導して参りました。昨年度来各種入試説明会において、模擬テストデータなどをもとに今年度の大学合格者数は激変する、大幅にアップさせるとお話しをしてきました。

結果としては、現役で国立大学には大阪大学・大阪府立大学・千葉大学・岡山大学をはじめ20名が合格し、私立大学にも早稲田大学(3名)・立命館大学69名をはじめ別表の難関大学に多数が合格しています。このように、昨年までの合格状況を一変させることができましたので、コース制初年度の成果をご覧ください。来年以降、更に今年の結果を倍する実績につなげる取り組みを押し進めて参ります。ご期待ください。

学力アップを支える学習・教育システム

コース制の導入以来、私どもは入学してきたそれぞれの生徒について、どの生徒も伸ばしていくことを目標に教育のシステム化に取り組んで参りました。「システム化」という言葉は何か機械的かつ一律で冷たい感じに聞こえます。しかしながら私たちは、個々の教員の名人芸的な学習指導法を超えて、たとえ新任の教員であっても質の高い教育を施すことができるシステムを構築することにより最大限の学習効果を得ることを目指しています。この3年間、左記にお示ししました様々な取り組みをはじめ、クラス編成や習熟度別授業のあり方など、試行と改善を積み重ね今日に至りました。ここで、その一端をご紹介させていただきます。

《一つ目》はコース制の導入による1年次からのコース毎のクラス編成およびカリキュラム編成にあります。また、総合文理コースは英語の習熟度別授業を導入しています。それにともない、時間割編成上、総合文理コース内にハイレベル授業クラスを1クラス設けてあります。

《二つ目》は45分7時間授業で土曜日を含めて、週38時間の授業を実

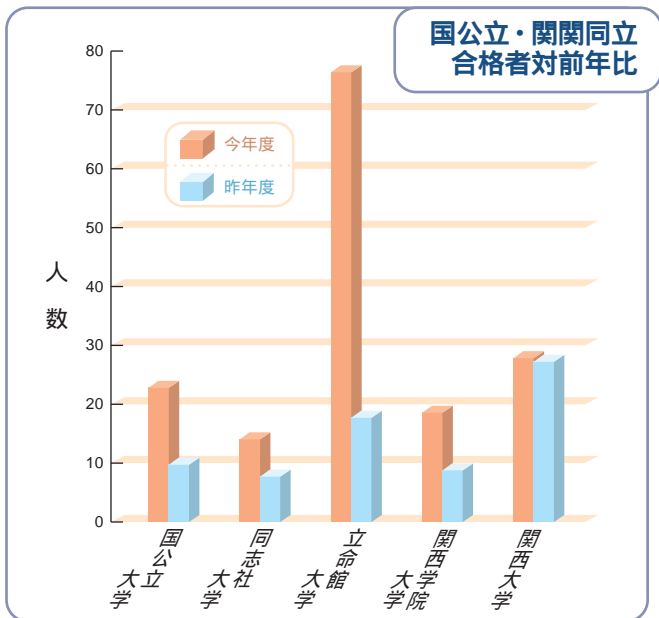
主要大学合格者数

大学名	今年度	昨年度
国公立大学	23名	10名
同志社大学	15名	8名
立命館大学	77名	18名
関西学院大学	19名	9名
関西大学	29名	28名
関関同立合計	140名	63名

大学名	今年度	昨年度
京都産業大学	7名	29名
龍谷大学	28名	23名
甲南大学	10名	13名
近畿大学	21名	34名
追手門学院大学	42名	39名
その他の大学	107名	125名

卒業生数235人(追大内部推薦者数39人)
外部受験者数196人





施し、主要科目に大幅な時間増を行っています。

《三つ目》は高1から高3まで、大学受験に向けたアドバンス・ゼミと呼ばれる課外授業を、4時から6時まで希望者に対して実施しています。昨年度は月火木金のアドバンス・ゼミ28講座を開講し、857名が参加、長期休暇中は29日間76講座2058名が参加、高3特別セミナー（6時20分～8時）は9講座161名が積極的に参加していました。なお、成績不振者に対しての手当てとしては、フィードバック・ゼミという補習を行っています。

《四つ目》は4月の授業開始時に学習オリエンテーションを実施し、学習意欲の向上につとめています。また、定期考査毎に「授業アンケート」を実施し、生徒とともによりよい授業へ向けての改善の取り組みを行っています。生徒による授業評価を教員は真摯に受け止め、教科会議・職員会議などで授業の点検・相互批判を行っています。

《五つ目》は各教科・各学年で学習面での数値目標（進研模試の偏差値・各大学への合格者数など）を持って常に点検しながら、指導を進めていることです。また、ベネッセと提携したFINEシステムを導入し、進路と学習指導にITを活用しています。

《六つ目》は教員研修です。若手の教員を中心に昨年度は平常4名の教員を代々木ゼミへ研修に派遣しました。夏期休暇中はさらに数名の教員を派遣し、学習指導力の向上につとめました。

今後の計画としては、昨年度大学より頂いて教員全員に配布されたノートパソコンを用いて、FINEシステムの高度活用や生徒懇談システムの開発など、教育のIT化に取り組んで参ります。その中で、教員全員での「情報の共有化」を押し進め、これにより従来にない生徒指導の質を高める取り組みをすすめます。



中学生に対するベルリッツによる英会話レッスン



早稲田大学理工学部教授 竜田邦明教授の講演

学校生活を充実させるその他の取り組み

学習以外の学校生活の充実に向けて、次の取り組みを行っています。

平成14年度は、希望者に対して語学学校のベルリッツの外人講師による英会話のレッスンを無料で実施しました。前期に10時間あるいは後期に10時間のレッスンを実施することで、生徒の学習意欲の向上を図りました。本年度も希望者数などを考慮してプログラムを策定し実施します。

夏休み中にはオーストラリアでの23日間の海外語学研修を実施しています。これについても、ベルリッツの講師による10回の事前指導の英会話レッスンを組み込んでいます。

昨年度は高3理系の生徒および高2理数コースの生徒に対して、本校卒業生の本学院理事の早稲田大学理工学部教授の竜田邦明教授の特別授業を実施し、生徒の学習に対する、モチベーションの向上を図りました。文系生徒向けには、山桜会会長で弁護士の方の川原俊明先生に特別授業を行っていただきました。本年度も高大連携プログラムを検討中です。

クラブ活動の充実のために外部コーチを招聘しています。どのクラブについても実技指導者のいる状況をつくりました。

大阪府下トップの高校入試倍率

ご紹介しました教育改革の取り組みを受けて、本年度の高校入試における応募状況は、英数コース40名、理数コース40名、総合文理コース160名、総計240名の募集に対して、実に1173名の志願者が殺到し、とくに英数コースでは11.27倍という大阪府下でトップの競争率となりました。一次入試では対前年比27%増であり、公立高校が広き門となる中で、とりわけ専願者は20%増と追手門の人気の高さを裏付けました。特徴としては、500点満点の入試で400点を超える層が例年に比して急増したことです。昨年に較べて増加した約240名の受験生のうち100名が400点を超える得点であり、名実共に共学の進学校としての地歩を築きつつあるといえます。来年度は是非とも専願率を100%にもっていきたくと考えております。

なお、兄弟関係や親子関係の優遇制度については、多くの卒業生の皆様のご応募やお問い合わせを頂き、受験や入学に繋がりました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

適性

校長 亀井 哲夫



「私は本当に悪ガキだったが、野球を始めて少しずつ人間らしくなった」とベーブ・ルースは言っている。

彼に野球を教え、人生の成功へのキッカケをつくったのは学校の先生です。進学にしろ、職業にしろ、生徒たちができるだけはやく目標や希望をもつことが大切です。

ベンチャーコースなどでは、ライフプランとそれに応じたキャリアプランの作成を重視しています。

勿論、目標や希望も成長段階で変更することがあるでしょうが、小規模校ならではのきめ細かい指導のもと、家庭と学校が協力しあって、生徒たちの適性を見つけ、サポートしてやるのが大事だと思います。

その道、その世界で一家を成した人たちでも、他では適用しないだろうと思う人もいます。

そう思うと、いかに適性ということが大切であり、ポイントであるかがわかりますし、先生たちの懇談や進路進学指導がいかに責任あることが痛感させられます。

今の生徒たちはパソコン等でバーチャルな世界に慣れていますが、人との接触は余り得意でないようです。

そこで、学校に色々な人に来ていただき直接に話を聞いたり、外に出て行き色々な人と接する体験を通して、自分を発見するチャンスを多く設けていきたいと考えています。

春休みの4月5日(土)に、高市早苗経済産業省副大臣においでいただき、中2、中3、のベンチャーコースの生徒と保護者の方に、ベンチャー教育の必要性についてお話いただきました。

生徒たちの中には、なんで勉強せなあかんのかという素朴な疑問をもっている者もいます。

高市さんのお話は、第さんが大手前中高の出身ということもあって非常に親しく御自身のチャレンジング・スピリットや中高時代に学んだ知識や教養が、政治家になって人と会ったりする時にいかに役立つか、本当に熱い語りをしていただきました。

山桜会の皆様方も温いまなざしで後輩たちをこれからもみまもっていただきたいと思います。

今後ともよろしくお願致します。



3月1日から中学新学年スタート!(プレスクール)

同窓会

小47 兵頭 公克

さあ、80才にして起とう

昭11年借行社小卒業生の気えん



「私たちは自らのコトバで、自らを不幸にしているのではないか...」ある著名な人の、そんな声が、テレビから聞こえてくる。ベトナム騒動をきっかけに、展開した騒然とした世情。昭和11年卒ゆえに、「昭土会」と名付ける、このランでもお馴染みの面々が、80才を迎えるのを記念に、梅田のマルビルに集まり、恒例の「おしゃべり会」を開いた。題して「われら、80才にして起つ」...

(注)「寒いときは遠慮しておきます」と、陽春を待っているのが、各務原市に住む組の渡辺敏彦君。伊賀、黒田、劉君に眞面の安部哲次君たちも「この次は必ず...」と、楽しみにしている。い組の常連渡辺叔邦(ただくに)君、石田幸助君、中井晃君たちも、次回は必ず...と。そして東京・武蔵野からも橋本眞君が来阪を楽しみにしている。(筆者・兵頭)

(司会)まず、この会の発足について赤松義夫さん(昭和11卒い組)から...

赤松:昭和60年ごろ。私たちの担任だった山上先生が、まだ借行社におられた。勤続祝いを兼ねた激励会を、堺で開いたのが、きっかけ...

前田芳郎(同、い組):その頃の顔ぶれの中に、私や吉本さんもいた。

吉本晴彦(同):その会が、2か月に1度今も続いていると聞いて、会場を私のマルビル一階に、3年前から移してもらった。レストランで好きな物を食べながら昼間の2時間を、楽しく有効に過ごしている。

赤松:学校時代の思い出で、今なお印象に強く残っているのが、毎朝並んで歌った「金剛石」の崇高なフイキだね。「金剛石も磨かずば、珠の光は、そぞらむ。人も学びて後こそ、誠の徳は現われる...」すぐれた人になるために、いつまで経っても、磨く努力も...。自分以外の者のためにも、これは終生忘れてはならない言葉だ。

柴田善次(同、ろ組):私も朝礼で歌った「金剛石」が、一番印象に残っている。3年生まで、近くの泉尾尋常小学校へ通っていた私は、「大阪城の近くに「男の子の教育」に大変熱心な学校があるから...」と、伯母の奨めで4年生の編入試験を受け、幸い合格した。鉄筋コンクリートの校舎がまばゆい。授業も進んでいて、英語教育もあった。毎日の宿題も大変。特に二か手だったのが音楽で、いきなり楽譜を読まされ、困ったことを憶えている。

体育の方では、剣道など、寒ゲイコも厳しかった。陸軍の子弟もたくさんいて、「敵中横断三百里」で有名な建川中将や、政治家の舛谷代議士の息子さんも、いっしょだった。

難しい問題が出た試験のとき、「今度はみんな百点取れまい」と安心してると、さにあらず。満点が続き出た、私はついて行くのがやっとこさ...。でも、本当に良い友に恵まれ、幸せだったなあと、いま父の故郷橋本市で余生を楽しんでいる。

入江国太郎(同、ろ組):現在、新内家(や)岡本弥八を名乗る。

私が卒業したのは二・二六の年で、先ほどの話の出た建川中将の息子や、日露戦争の祈り撃沈された輸送船「常陸丸」の山村連隊長の孫もいた。借行社の制服を着たのは、雑喉場(ざごば)の市立小学校から転入した3年生の時、それまでは1クラスだけだったのが、一般市民からも募集して2クラスになり、開かれた大阪借行社附属小学校になった。でも、「兵隊学校」と称された通り、軍国教育が基本であった。とくに、「橋本精神」の忠君愛国で賞かれ、修学旅行も橋親子の史跡を訪ねる行軍であった。

普通校の遠足と違って、お菓子は持参禁止、弁当は梅干しだけの日の丸弁当(昼食時には先生が点検に回る)剣道は正課、玩具であっても、執銃教練もあった。(運動会の花形は模擬演習)

しかし、当時としては珍しい民主的な教育もあった。生徒相互の選挙で級長を選び、級長会で生活の申し合わせをした。

音楽教育も五線譜で教えられた。英語の授業もあった。これらの民主授業が取り入れられたのには、片桐武一郎校長の、軍部に対する只ならぬ抵抗があったらうに...と、今つくづく思う。とにかく不思議な学校で、総合して「良い進学校」であった。何よりも、背筋をシャッと伸ばす膝(しつけ)を受けた事に、感謝!

諏訪 博(同、い組):私の兄二人も、同じ時期に借行社小に、お世話になりました。妹の夫も、卒業生という奇縁で結ばれている。

遠景に大阪城の石垣を望み、お濠の上を渉る薫風を紅顔に受けながら、走り回った運動場は、常に脳裏から離れない。何が80才の足を、同窓会へ運ばせるのか?それは素敵な小学校生活の思い出、良き学友との苦楽の回想そのものにある。

永い年月を経て、我が国の足取りをめぐる内外の情勢の中で、学問や生活に対する考え方が、驚くほどの規模と速度で、変貌を遂げてきた。現代の少年少女にとって、幸が不幸か、社会全体が情報過多の渦の中にある。その選別は、幼い人だけでなく、大人や親にとって、とても大切。良い栄養や、優れた肥料がなくて、美しい、優しい花は咲きません。

鉛筆一本、消しゴム一個の大切さを繰り返し説いて下さった昔の先生方の、率先的な指導に感銘を覚えずに、おれませぬ。

「何事にも興味の眼で臨み、追求の姿勢を崩さないこと。粘りのある人生を、持ち続けること。」そのバックボーンになっているのが、私たちの教えられた「誠実、剛毅、自治の心」です。

前田:「時の経つのは速いなアというのが実感です。いろんな試練があった中で、もっとも過酷だったのが、第二次世界大戦の時代。多くの友を失ったのは、本当に悔しい。私はいま、カルチャ教室に出かけて絵を描き、ささやかなボランティアに動いています。「青春とは人生のある時期ではなく、心の持ち方を言う」を、座右の銘にして...。今後も私たちの仲間、昔を語り合い、お互いの生き様から、時には天下国家を論じ、互いに励まし合ってキズナを大切にしていきたい(一同うなずく)

山村 明(同、ろ組):軍人の家に生れ、軍色強い借行社に育てられ、楽しいハズの青春時代は、ほとんどが苦しい思い出...。(でもそういう時代だった。)最近も払拭されたハズの戦争が人心を騒がせている。私は80年を生き抜いたことに、ただ感謝する昨今です。

願わずに、謝する傘寿の彼岸かな(明)

追手門学院小学校の子ども



学校長 伊勢田 善昭

朝、登校してきた子ども達は、校門で一礼してから教室に向かいます。学校生活は礼から始まります。借入社時代は拳手の礼をしていましたが、礼の心は今も昔も変わりません。また、下校の時は、下校班の班長が号令をかけ、一斉に礼をし、学校の日が終わります。

保護者の方々も校門で一礼をして校内に入られます。その姿を見られた外部の方から「子どもさんが礼をされるのは、先生方のご指導でできるようになるのはわかるのですが、親御さんが皆されるのはどのように指導されているのですか」と尋ねられることがあります。「学校として指導したことはありません。卒業生の保護者の方か、兄弟関係の方がされるのを見て、入学式の日から親も子どもができるようになっていきます。これも伝統の一部かもしれませんが」学校生活では、礼・挨拶・会釈・言葉づかい・作法について厳しく指導を行います。人と人との関わりにおいてまず基本となる事項です。朝の「おはようございます」から始まって、下校時の「さようなら」まで、大きな声で元気にはっきり挨拶のできる子は「挨拶の達人」として認められ、昇降口に名前が張り出されるキャンペーンも行います。

学校へのお客様に対して会釈することも大切な生活のひとつです。初めて訪問された方々から「礼儀正しいですね」とお褒めの言葉をいただくことがあります。

礼は本校の第一義として変わらざるもの、変えてはいけないものとして不動の教育方針として継承されています。しかし、まだまだ不十分な所がありますので、更に高次のレベルを目指して指導していきます。

小学校では、宿泊を伴う行事として4年生の林間学舎に始まり、5年生ではオリエンテーション、5・6年生の臨海学舎、6年生の修学旅行、冬の学校があります。これらの行事における目的はそれぞれに違う部分がありますが、基本的に小学校の教育の目指すものが集約されています。

第一に、団体訓練が基本にあり、団体生活の中で要求される社会性の育成です。例えば食事において、家庭では楽しく語らいながら食べる団樂の時ですが、公共の場として他の人と同席になった時のことを想定して静かに食べる訓練が行われます。修学旅行の時には先生が注意することがない状態になっています。宿舎における廊下の無言歩行、見学地でのマナー等社会の一員としての行動訓練が機会に応じて厳しく指導します。



入学式の日(6年生が1年生を校舎案内)

また、友達と一緒に寝食を共にすることにより、お互いを思いやる心、お互いを認め合う心を育て、自分勝手なわがままを抑える心情面の育成を図っています。子ども達にとって、学校ではわからない面をお互いに知ることにより新しい友をえることもあります。いくら厳しく指導をされても、子ども達にとって小学校生活で思い出に残っているのは、こうした宿泊を伴った行事のようです。同窓会でうれしそうに話をするのは、先生の目を盗んでの枕投げや、色々やったことです。これも、別の意味での社会性の育成かな？

本校の創設者である高島鞆之助先生が、少年時代を過ごされたのは鹿児島です。薩摩藩では、郷中教育といって年長者が年少者の教育係になるという制度がありました。ボーイスカウトがこれを参考にして作られたというのは有名です。私の小さい頃は、近所のお兄ちゃんにこま回しやべったんなどの遊びを教えてもらい、自分が大きくなったら下の子に教えるという世界でした。昔に比べて縦のつながりが少なくなっている現在、小学校では、各種の活動の中で、縦割りの活動を取り入れています。同じ交通機関を使っている子ども達を校外班として編成し、班長を中心に大阪で活動したり、緊急時の下校時に使ったりしています。朝礼で、今まで上級生に助けてもらったり、世話になったことのある人はと尋ねたらほとんどの子が手をあげました。この校外班の活動から、下級生に対して親切に面倒を見るという意識が強くなり、そして、一年生が一人で通学し始めても困った時には上級生が面倒を見ることにつながります。掃除での縦割り、他学年とのなかよし給食等、リーダーの育成をかねて今後更に充実を図っていきたくと考えています。

会員OBの今 大阪でジャズを演奏すること

小71中高14
吉川 裕之

大手前校舎中庭の東側に、確か理科教室があった建物から吹奏楽部の元気なマーチのメロディーが流れて来た。それまで、生の音楽などほとんど聴いた経験もなく、音に誘われるまま部室を訪ねた・・・。すごい感激だった。

僕と音楽の出会いはこんなところからスタートした。もう40年も前のことになる・・・。

それ以来、今日まで音楽が聞かれない日が、一日もないのが当たり前という生活を過ごしてきており、いまは、サウスサイドジャズバンドという日本でも数少ない1920年代～30年代ジャズを基盤とした音楽を演奏する、プロのディキシーランドジャズバンドのリーダーを務めている。そろそろ結成30年を迎える。

自分の音楽活動を振り返ると、なにも知らないで一生懸命練習していた高校時代のバスバンドでの活動。大学時代、はじめてジャズと出会い、七〇年安保もそっちのけで練習していた熱中時代。七〇年からアメリカへ渡り、白人バンドに加入し、米国各地でのジャズバンド演奏活動。帰国してからのプロとしてのジャズ生活、プロデューサー活動、プロダクションの経営・・・。

こう書いてみるとなにか華々しく活動してきたみたいだが、振り返ってみると、実際は音楽的には、自分の才能を過信して天狗になっていた時期、凝り固まった音楽観によるメンバーとの対立、メンバーチェンジによる音楽の再構築、バンドサウンドの独自性、方向性の確立。バンドの運営ではずいぶんエネルギーに動いてきた自負はある。

最近では、ジャズのメッカであった道頓堀、千日前を広く市民に訴求しようとミナミにある昭和初期に建てられた、元・精華小学校を使っただけのフェスティバル「ジャズシティーオオサカ」の企画運営を地元と共に、三年に渡り行っており、将来はプリザーブ

ションホール(保存音楽のジャズの聴けるホールとしての確立)とジャズ博物館の設立を視野に入れた活動を行っている。

しかし、最近の経済的環境による音楽活動、演奏機会減少の打撃はこれまでに経験のしたことがなかった状況であり、メンバー全員の生活を揺さぶるの大問題となってきている。・・・また胃が痛くなってきた。

プロの演奏家として30年近くすごしてきて、未だに毎日のように自分の音楽性と葛藤があり、さらに、プロダクションの経営者としてメンバーの演奏機会の創出にこれまで以上の企画力、営業努力が必要とされてきたこの時代、もはや、消えゆく音楽の一つとなってきたジャズを大阪で支えて行こうと決意している。これからもブレイジングマネジャーとして、メンバーと共に演奏活動を通じて大阪で音楽をやり続ける意義を再確認し、大阪的なジャズの良さを育成、継承するだけでなく、そこに、オリジナリティーの高いサウンドを創り、演奏することを目標に、したたかに音楽活動を続けてゆきたいと思っている。

「音楽」が「音我苦」にならないような音楽生活をめざし「演じる方」も、「見る方」も一緒になって楽しめる時間を共有できるライブ活動を続けてゆくことができればと願っている。

サウスサイドジャズバンド全員が集まるライブは、毎月一回、最終火曜日午後7時50分～、ウメダ・お初天神通、南へ入る、曾根崎センタービル5階「ニューサントリー5」

電話、06-6312-8912。一度のぞいてください。最後になりましたが、会員各位のますますのご健勝をお祈りいたします。



平成16年1月17日(土)開催の新年会で演奏して頂きます。是非、お運び下さい。(新年会実行委員会)

山桜会会則変更のお知らせ

会則委員長 香山 恭慶

去る1月18日午後5時より、日航ホテル大阪において山桜会臨時総会が開催されました。席上、会長が年会費導入の必要性およびそれに伴う会則改正の詳細な趣旨説明をしたのち、山桜会会則改正(案)を議場に諮ったところ、何等異義なく満場一致をもって承認可決されました。会則の変更箇所については後記「会則新旧対照表」のとおり。

また年会費納入に関する規定である「山桜会会費規約」については、会則変更を条件にしてあらかじめ平成14年10月12日開催の理事会において承認されていたことから、平成15年1月18日をもって発効いたしました。

会則新旧対照表

変更前

第3章 会員
第5条
本会会員を分けて特別会員正会員とする。
1. 卒業者を正会員とする。
2. 教員ならびに旧教員を特別会員とする。
3. 中途退学者については、理事会の承認を経て正会員とすることができる。

第6条
正会員は、卒業時に終身会費を納入する。その額は理事会で決定する。理事会の承認を経て正会員となった者の会費は、理事会で定める。

第7章 附則

第24条
この改正会則は平成12年5月28日より実施する。

変更後

第3章 会員
第5条
(省略)
第6条
前条1号および3号の正会員は、入会費および年会費を納入する。
前項の内容については理事会で決定する。

第7章 附則

第24条
この改正会則は平成15年1月18日より実施する。

追手門学院校友会山桜会会費規約

第1条(目的)

本規定は、追手門学院校友会山桜会(以下「山桜会」という)会則第6条に定める会費に関する事項について定める。

第2条(適用範囲)

この規約の適用を受けるものは、会則第5条1号に定める正会員(以下「1号正会員」という)および同条3号に定める正会員(以下「3号正会員」という)とする。

第3条(入会費)

1号正会員は、入会費として卒業時金30,000円を納付する。
3号正会員は、入会費としてその資格を得た後速やかに金30,000円を納付する。

第4条(年会費)

1号正会員および3号正会員のうち、4月1日を基準日として満23歳以上の者は毎年1回年会費として金3,000円を納付する。
前項にかかわらず、やむをえない事由につき理事会の承認がある場合はこの限りではない。

第5条(納入方法)

第3条および第4条に定める会費の納入手続、納入時期については、会長が定める。

第6条(規約の改廃)

本規約の制定及び改廃は、理事会の承認を要する。

第7条(附則)

本規約は山桜会会則の変更を条件として平成15年1月18日より適用する。

以上

年会費お振り込みのお願い

副会長 川口 正弘
財務委員長 石津 良行

山桜会会員の皆様方には如何お過ごしでしょうか。日頃は会の運営にご協力いただきまして誠に有り難うございます。

さて、この不景気の折りに会員の皆様方にご負担をおかけするのをお断りしなければなりません。山桜会ではこの度、年会費制を導入することになりました。少子化にともない将来卒業生が減少し、今迄卒業時に頂いていた終身会費だけでは会の運営が出来ない事態に陥る事が予想されます。収入減を補い、会の活動資金を確保することが目的で、今迄頂きました終身会費を入会金と位置づけ、今後3千円の年会費をいただくことになりました。

山桜会の正副会長及び各委員長で組織する正副・委員長会議では、約2年前から会

費導入の議論がなされ、昨年の理事会で承認され、1月18日(土)の新年会前の臨時総会で満場一致の賛成をうけて成立いたしました。年会費の額は、会員の皆様方より幅広くお振り込みいただけます金額として3千円とさせていただき、お支払い方法も色々検討させていただきました結果、全国の郵便局及びコンビニエンスストアでお振り込みいただけるコンビニネットを採用することになりました。初期の導入費用は少しかかりますが、会員の皆様方にご不便をかけないようにと考えさせていただきました。会報に同封させていただきました用紙にてのお振り込みを切にお願い申し上げます。(振込料は山桜会負担となっております)

我々山桜会役員は常にボランティア精神を持ち、理事会・評議委員会でも夜6時30分頃から始まるにもかかわらず食事の用意はいたしておりません。評議員の中には夜遅くなる会議なのに食事も出さぬのかと批判する人もいるようですが、一人一食数百円の食事代も年間にすれば総額数十万円になり、活動資金を圧迫しかねないからです。今後山桜会の会費がいかに有効に使われているかを常にチェックしていくのが財務委員会の努めと考えております。皆様方より頂きました会費を無駄遣いなく、有意義に使わせていただくことを誓い、会員の皆様方への会費お支払いのお願いとさせていただきます。お振り込み宜しくお願い申し上げます。

弁護士法人
川原総合法律事務所
Kawahara Law Office

弁護士 川原俊明
(小71・中高14期)

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目10番2号 幸田ビル8階
TEL:06-6365-1065(代表) FAX:06-6365-7265
E-mail:kw-law@smile.ocn.ne.jp
http://www.kawahara-law.gr.jp

深田司法書士事務所

司法書士 深田 壯
(小82期・大手前中25・茨木高25期)

〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目 2-29
(大阪法務局南・司法書士センター内)
TEL 06-6941-6920 FAX 06-6941-6930

森田和明法律事務所

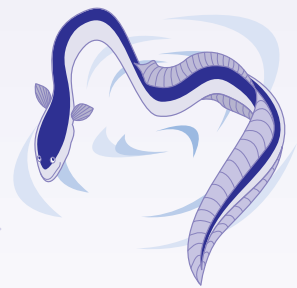
弁護士 森田 和明
(小72期・中高15期)

〒530-0047 大阪市北区西天満6丁目3番11号
梅田ベイス・フン6階606号
TEL 06-6361-8613 FAX 06-6361-8617

東京山桜会 校外教授とグルメの会

平成14年10月19日、清澄庭園にて東京山桜会会員22名が集まり散策をしました。この庭園は、江戸の豪商紀ノ国屋文左衛門の屋敷であった所で、享保年間に久世大和守の下屋敷となり庭園の基が形造られ、明治11年に岩崎弥太郎が、(孫の澤田ミキさんは、エリザベスサンダースホームで有名。)この邸地を造園計画し『深川親睦園』として竣工しました。その後も造園工事は進められ隅田川の水を引いた大泉水をはじめ築山、枯山水を中心に、周囲には全国から取り寄せた名石を配して明治の庭園を代表する『回遊式林泉庭園』を完成し東京都の名勝に指定されています。関東大震災や東京大空襲の戦火の時は、ここへ避難されて助かった人々が、大勢いたそうです。オアシス&避難場所で、庭園は今の2倍の広さがあったそうです。お昼は、ここから500mぐらい歩いた所のどぜうで有名な『深川高ばし、どぜう伊せ喜』で丸ごと、骨ぬき、柳川の三種のうちどれか一種を選んで、コイのアライとどぜう汁も食しました。くさみもなく、とてもおいしく食べやすかったです。最初は、未知との遭遇で、こわごわだったのですが全員舌鼓をうって食べました。『あんた、ドジョウ知らんのんかいな！いい年して！』先輩のきものをシャキッと着

た背すじをのばし首がスウッと高くのびた柴田さんが、息子にでも言うようにグレイ頭の大先輩に言われたので、ビックリして目をグリグリしてましたら、『心配おまへん。大丈夫です。わしら同級生でおまんねん。』ものすごい大阪弁と江戸のドジョウ料理をつまみながら、漫才をきいているような会話に笑いがたえませんでした。『初めての方、手を上げて下さい。』と萩原大先輩の声。9割の方が、ドジョウ料理初めてだったので柴田さんの言葉を思い出して大笑いしてしまいました。柴田さんによると、夜水にいれておくと、キュッキュッと音を出すそうで、栄養価があり、精がつくそうです。沖津さんは、恐がってました。私も未知との遭遇で、うなづいていました。腹も満腹になり、一行は江戸東京博物館に行き、館内のガイドさんの説明をききながら江戸東京の歴史と文化を振り返り今に至るまでを勉強しました。時代劇を思い出させる日本橋の模型、江戸城屋敷、城下町の長屋の生活の様子、初期の水道のしくみの模型、生活用品で、今に至るまでのなつかしい物もいっぱいありました。とても楽しかったです。ドジョウ料理も味わい、よく歩きいい運動になり東京山桜会会員は、家に帰るのでした。



(佐伯記)
前号70号で、
ロシアの将軍プレツェル 訂正でステッセル
今回の校外授業の参加者は20名で参加者小55期辻徹殿が12月19日逝去されました。ガンとの闘病中でしたが別れの参加でした。辻殿のお人柄が惜しまれます。
喪心よりご冥福をお祈り申し上げます(事務局)

京橋駅前(JR・京阪・地下鉄)
(大手前中高37期)

歯列矯正専門
子供～大人の方の歯並び相談

kurioka
ORTHODONTIC PRACTICE
更正医療・育成医療指定機関 / 顎口腔機能診断施設

くりおか矯正歯科クリニック
tel.06・6358・4182(ヨイハニ)

院長 **栗岡宏行** 日本矯正歯科学会会員
アメリカ矯正歯科学会国際会員

診療時間
火曜～土曜 10:30～19:30
休診日
日曜・月曜・祝日
大阪市都島区東野田町2-9-7 K2ビル3F
<http://www.kurioka.com>

MUSIC GALLERY
DAITO
大東楽器株式会社
ENCOURAGE BY MUSIC

40th 音楽と共に、今40年

大東楽器株式会社

お問い合わせは
☎0120-43-0671
<http://www.daito-gakki.co.jp>
大手前高校 37期卒 細川晃平

給湯設備を通じて
より快適な暮らしを提案

SEIWA
Industrial Corporation
株式会社 精和工業所

代表取締役社長 **山下清一**
(高・14期)

本社工場 / 〒664-0836 伊丹市北本町3丁目105番地 TEL:0727-82-0281(代表)
奈良工場 / 〒639-1039 大和郡山市椎木町1番地 昭和工業団地 TEL:0743-56-1062(代表)

山桜会チャリティー・ゴルフコンペのご案内

山桜会の皆さまこんにちは。

ゴルフ同好会は毎回ゴルフというスポーツを通してオール追手門の仲間達と世代を越えた交流を目的に行なってきました。今回は第4回山桜会チャリティー・ゴルフコンペのご案内を致します。

これまで、開催収益金を各種N G O 団体に寄付いたしました。今回も同様な趣旨で開催させていただきます。

なお、今回は山桜会会員はもちろん、学院役員・各級の先生方やP T A の役員の方々にもご参加を頂く予定です。お一人での参加も大歓迎、また各学年同窓会コンペと併せたダブルコンペとしてもご利用ください。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

ゴルフコンペ実行委員会

記

開催日時 平成15年9月7日(日)9:00スタート(15組 エントリー済)

集合時間 8時30分(時間厳守・遅刻罰金あり)

開催場所 三田カントリー27 兵庫県三田市上本庄1215
TEL 079-568-3311

参加各位には後日、組合せ表・地図等を郵送致します。

参加費 ¥8,000円程度

(チャリティー代¥1000含む、尚プレーフィは、各自ご清算下さい)

競技方法 18ホールストロークプレー、山桜会ペリア方式・他ローカルルールに準ずる。

個人戦(入賞は当日発表します。)団体戦(当日発表します。)

申込方法 追手門学院校友会山桜会事務局まで

(7月末日締切り、ただし定員になりしだい締め切らせていただきます。)

TEL 06-6940-3481 FAX 06-6940-3482

ご希望の組み合わせがあれば、お申し出ください。

山桜会・ホームページにもチャリティーコンペの案内を掲載致しております。<http://www.yamazakurakai.com/>

備考 今回はプレー費がゲスト特別料金17,000円(消費税別)でプレーができます。

間近にK G U (関西ゴルフ連盟)主催の関西ミッドアマチュア選手権が当場で行なわれますのでグリーンをはじめコースコンディションは最高な状態にあると思われれます。

第一回山桜会、追手門学院P T A 実行委員意見交換会

平成15年3月20日午後7時から山桜会正副会長、実行委員長と追手門学院小学校、大手前中高等学校、茨木中高等学校平成14年度P T A 正副会長、平成15年度P T A 正副会長予定者との懇談会を行いました。

平成14年度のP T A の役員の皆様には今年1年をふりかえっての感想、山桜会活動についてのご意見を頂き、又次年度のP T A の役員の皆様には次年度の抱負を語っていただき、懇談会で山桜会活動にご理解を頂きました。

今年度も各学校の行事に積極的に参加していくうえで、今回のP T A との懇談会は、学校P T A との関係がより親密なものになる有意義な懇談会でありました。

これからも、学院、P T A、山桜会が友好的な関係を維持、発展するよう努力していきたいと思っております。

渉外交渉委員長 北村 寿彰



訃報

酒井園子(小73期・中・高16期)は平成14年5月1日、市立豊中病院で永眠しました。

53年の短い生涯ではありましたが、追手門学院時代はもとより、その後の大学、職場を通じ、多くの素晴らしい先生方、先輩方、友人に恵まれたのは幸せであったと存じております。

ここに生前中に賜りましたご芳情に対し厚く御礼申し上げます。

父 酒井 良之助(小48期)

何でもあります 高17期卒 嶋野 義夫

ダントツの3000坪

●生活家具から調度家具まで●

家具のやおもく

日本一の安さ! ご婚礼家具 200組 祭屋 配送・組立無料 区域外の方も可

日本一!! BED 300台 祭屋

3年連続日本一! 学習机 200台 祭屋

カリモク マルニ 一流ブランド

コスガ 浜本工業 オール3割引

シモンスベッド フランスベッド 輸入家具も特別値引き

大阪府八尾市光南町2丁目41 外 商 接 井・木 村

フリーダイヤル 0120(555)703

審美歯科、インプラント、矯正、歯周病治療

アッシュデンタルヘルスケア

淵端 孟 (追手門小学校59期)
淵端 斉
淵端 弘子(旧姓 桂、中高30期)

大阪市中央区城見1-4-1
ホテルニューオータニ大阪6F
TEL 06-6949-0811
<http://www.eonet.ne.jp/~hdhc/>

“すべては笑顔のために” が合言葉

総合フードサービス

IFSCOグループ

一富士フードサービス株式会社

代表取締役社長 辻本 泰幸

本社 〒553-0003 大阪市福島区福島4-7-2
TEL 06-6458-8801(代表)

山桜会 総会・懇親会

tomorrow, tomorrow, tomorrow.
Life is a walking shadow...

シェイクスピアの戯曲 マクベスの有名なセリフに tomorrow, tomorrow, tomorrow. Life is a walking shadow. というのがあるのはご存知の方も多いかと思ます。つまり、人生というのは青年の時には希望に満ちていても、大人になると、明日、明日、明日と、時間という鞭が人を追いたてるように過ぎ去っていくのを感じて、光陰 矢のごとしと嘆くことがあるものだという、多くの人が感ずる人生に対する悲哀感がマクベスのセリフとなったのでしょうか。日々仕事や家事に追われている方、1年のたった一度の山桜会の総会に参加しませんか？母校の懐かしい校舎や恩師や友人に会って心を癒して下さい。過去にも幾度か母校で総会を開催して参りましたが、特に今回の山桜会総会は、今までとカラーや活力が違います。それは山桜会が現在活動中のOB会を支援していこうと言う主旨から、大手前中高演劇部OBが活動しているグループ『無名劇団』と現役の部員たちから成る共演で、『マクベス』を現代風にアレンジして皆さまの前で演じていただきます。『無名劇団』は素人集団と思えないような、あか抜けた演技力があり、彼らのパワーを感じていただきたいと思います。同じ追手門学院を卒業されても大手前学舎に一度も行った事がない茨木の卒業生諸君、演劇の好きな方や興味のある方、母校に関心のある方、OB会活動に関心がある方、同級生を懐かしく思いミニ同窓会をして親友に会いたい方、恩師に会いたい方、デートの場所を探しているカップル、休日に家族サービ

スをとお考えのお父さんお母さん方、友人と待ち合わせに使おうと考えている人、子どもに自分の卒業した母校を見せたい親、活力の欲しい人など初めての参加者大歓迎です。又、なにわのアナウンサー小88寺谷一紀氏に司会進行役を務めて頂き、続いて懇親会(当日会費徴収・学生会員無料)も開催されますので、会は一層楽しいものとなります。ぜひ6月22日(日)を予定に入れておいて下さい。山桜会の支援をご希望されるOB会の皆さんは、是非この機会を御見逃し無く、ご参考にされて事務局に御相談ください。

開催案内

開催日予定日 : 平成15年6月22日(日)
 総会 場所 : 110記念ホール...開催時間:午前10時
 イベント会場 : 同上...『マクベス』開演時間:11時
 (総会・『マクベス』公演のみ参加の場合無料)
 懇親会 会場 : 大手前中高食堂...懇親会開催時間:12時30分
 会 費 : 6,000円懇親会飲食代

大手前中高演劇部OB劇団「無名劇団」公演終了 お礼

無名劇団第2回公演「アンセム」、無事終了いたしました。劇場に観に来てくださった皆様、ありがとうございました。
 今回、第2回よりも多数の、およそ260人もの方々に観ていただくことができ、今後の活動や次回作に向けての意気込みは増すばかりです。
 我々「無名劇団」は今、6月22日の大手前中・高等学校演劇部員たちとの「マクベス」合同公演、および、8月の京都「アートコンプレックス1928」での公演に向けて、準備を進めております。またそちらの方にも、足を運びいただければ幸いです。
 最後になりましたが、私たちの活動を支援して下さる山桜会の皆様へ、厚く御礼申し上げます。



大手前中高・OB「無名劇団」合同公演「マクベス」のご案内

このたび、山桜会総会後に大手前中高演劇部、大手前中高OB劇団「無名劇団」合同で、シェイクスピア作「マクベス」を公演させていただくことになりました。56期から48期までが力を合わせ、ひとつの作品を作り上げようと、今練習に励んでおります。是非ご覧いただけますよう、お願い致します。

■ 作 品 「マクベス」
 ■ 作 ウィリアム・シェイクスピア
 ■ 脚色・演出 中條 岳青(49期)
 ■ 日 時 6月22日(日) 10:40開場 / 11:00開演
 ■ 場 所 小学校110記念ホール

【キャスト・スタッフ】

卒業生	香川真貴子 (53期)	寺田 沙紀 (55期)
堀 朋紀 (48期)	瀧野 可菜 (53期)	西村 風馬 (55期)
中條 岳青 (49期)	村田 典子 (53期)	瀧野 雄大 (55期)
東 隼 (50期)	栗本 明典 (53期)	高田 由香 (56期)
森岡 愛 (50期)	渡部 征史 (54期)	世古ひろ (56期)
細井 庸平 (51期)	西岡 涼 (54期)	徳丸 翔也 (56期)
山本 絢也 (51期)	川猿恵利子 (54期)	上原 正誉 (56期)
高校	道端 真沙 (55期)	奥野 祐也 (56期)
掛谷 将 (52期)	大森 愛海 (55期)	丸山 裕之 (56期)

土地活用・ビル管理・30年の実績



株式会社 タイセイシュアースサービス

大代表 〒534-0021 大阪市都島区都島本通1丁目4番20号 大成ビル8F TEL:(06)6921-8111 FAX:(06)6927-2244
 四ツ橋店 〒550-0014 大阪市西区北堀江1丁目2番6号 釣鐘ビル3F TEL:(06)6534-2577 FAX:(06)6534-2578

代表取締役 辻田 四郎
 (小・67期生) (中・10期生)

大成グループ

マンション入居斡旋 株式会社 レンティブ大成

都島店 都島北店 日本橋店 難波店 鶴見店 千林店
 南森町店 南巽店 北巽店 桜ノ宮店 梅田店

清掃

株式会社 タイセイサクセスプランニング

不動産売買仲介

株式会社 関西リアルエステート



八光カーラウンダ株式会社

八光ポーティング株式会社

八光トレーディング株式会社

八光サンバイリゾート株式会社

オーストラリア



マセラティ大阪地区正規代理店

ARESE SHIN OSAKA

フィアットオートジャパン正規ディーラー



八光カーラウンダ株式会社/ディーラー大阪支店

本 社 / 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-35 TEL:06-6397-8008 FAX:06-6395-7395
 福屋川店 / 〒572-0071 寝屋川市豊里町15-15 TEL:072-902-0088 FAX:072-902-0888
 豊中B/P ファクトリー / 〒560-0091 豊中市足井3-6-2 TEL:06-6858-8838 FAX:06-6858-8839
 http://www.hakko-group.co.jp/ e-mail:info@hakko-group.co.jp

代表取締役 池田八郎 (18期卒業)

Challenge to the 120th Anniversary

2008年度 学院創立120周年に向けて 「行動する追手門」

追手門学院幼稚園

幼稚園新園舎建設、9月着工予定

2008年の学院創立120周年に向けて幼稚園舎の新築が決まり、9月着工予定となりました。現在の幼稚園舎は創立から34年が経過して老朽化が進んでおり、従来から建て替える必要性が指摘されていましたが、この度全面的な建て替えを行い、約1年後には完成する予定となっています。

幼稚園の新築は保育方針である「創造性豊かな人間教育」、「友愛・礼儀作法」、「情操豊かな人間育成」等の考え方に基づいて、子供たちが学びと遊びのなかで様々な体験をすることを視野に入れた教育施設となっています。

概要：1階 1,061㎡ / 2階
1,101㎡ 駐車場 40㎡
合計：2,202㎡
園庭面積：1,203㎡
テラス面積：199㎡
設計会社：(株)ジャクエツ
施工会社 未定



追手門学院では2008年に迎える学院創立120周年に向けた取り組みが既に決まっています。教育改革を初めとして、学院の各学校の連携教育事業、またすべての園・学校で施設新築を含む増改築が検討されています。

山桜会員の皆様の協力を得ながら、2008年度までには新しい追手門学院をお披露目できるものと計画を進めており、ご期待いただきたいと思います。

追手門学院大手前中・高等学校 ベンチャーコース



経済産業省副大臣 高市早苗さんを迎えて 特別講演会開催

大手前中学校では、4月5日(土)午後2時から視聴覚教室で、2・3年生のベンチャーコースの生徒57名及びその保護者を対象に経済産業省副大臣高市早苗さんを迎えて「今こそ起業家教育が必要」と題して特別講演会を開催しました。

高市さんは、学生時代に「自分探し」をしながら、松下政経塾でいろいろな人との出会い、政治家になるまでの体験談などについて優しい口調で中学生に語られました。

講演の中で高市さんは、日本でのアントレプレナー(起業家)を紹介しながら、経済を活性化するためには起業家精神が必要で、将来起業家を目指すためには、「あらゆる勉強が無駄ではない」、特に「日本語をしっかりと勉強しておくこと」と中学生に熱いメッセージを残されました。

追手門学院小学校

毎年恒例の学用品供養祭が催される

1972年から始めて今年で21回目となる恒例の学用品供養祭が、2月6日小学校グラウンドで行われました。小学校では教育目標の「敬愛」において、人や物に対して尊敬する心と物を大切にすることを育てています。毎年、終業式が近づく頃、えんぴつ、消しゴム、ノートなど使い古されて役目を終えた学用品に「長い間お世話になりました」と児童全員で感謝の気持ちを込めて供養をしています。

追手門学院中・高等学校

今年度大学入試で進学実績が大幅に上昇

中・高改革の流れを受けて、教育改革が強力に進められており、今春の大学入試では昨年度と比較して大きな変貌を遂げました。国公立大学合格者数は、今年度23名(現役20、浪人3)となり、昨年度10名(現役6、浪人4)に対し、13名増加しました。一方私立大学の内、関関同立への合格者数は、今年度141名(現役98、浪人43)で、昨年度63名(現役44、浪人19)に対し、78名の増加となり、国公立及び私学とも2倍以上に跳ね上がりました。

今年度の51期生はコース制を取り入れた1期生で、当初から進学目標を掲げ、様々な学習環境を整えてきた結果、大きな実を結んだといえます。

追手門学院大学

2003年度 教育改革実施 2008年に向けた取り組み着々と進む

大学では2003年度セメスター制度の導入、1年生に対する導入教育、「学び論」「北摂を学ぶ」等を取り入れた新カリキュラムが実施され、教育改革が順調に進行しています。さらに新学部・学科設置についても検討が重ねられており、教育内容のより一層の充実が目指されています。同時に学院創立120周年に向けたキャンパス計画も積極的に検討されています。

上記諸改革プロジェクトの推進を主たる任務として、2003年4月1日付で特任副学長職を設置し、2008年に向け取り組みが着々と進行しています。